

86. 『食文化からイギリスを知るための 55 章』 (共著、明石書店、令和 5 年 1 月)

佐々木隆担当

「第 34 章 フィッシュ・アンド・チップスーイギリスの伝統的な国民食」, pp. 224-228
イギリス料理はまずいとよく言われる。フィッシュ・アンド・チップスもそのひとつである。フィッシュ・アンド・チップスのツールを辿り、産業革命がひとつの基点となっているが、社会生活の変化、輸送手段、冷凍技術の発達がその要因である。パニコス・パナイー『フィッシュ・アンド・チップス』、林望『イギリスはおいしい』、安東伸介他編『イギリスの生活と文化事典』にも触れながら論じた。最終的にそれは「塩や酢 (モルトビネガー)、ディップを自由に使って、自分の好みに合うように味付けをして食べてほしいというのがイギリス流のように、味が極端に薄くなっているのかもしれない。」 (p. 228) と指摘した。